

HEALTH CARE

おかしん

2015年10月 vol.4

文責：㈱日本医療企画中部支社



●特別インタビュー 総合上飯田第一病院院長 片岡祐司
「地域住民に寄り添える法人を目指します」
●最新ヘルスケアニュース 今後20年の医療経営環境を考える

上：総合上飯田第一病院 下左：上飯田リハビリテーション病院 下右：上飯田クリニック

岡崎信用金庫の医療介護業界への取り組みについて

地域密着型金融の推進

おかしんは「地元産業の発展と社会の繁栄に真心をもって奉仕する」ことを基本方針として、地域の医療機関や介護事業所に対して、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

問い合わせ窓口 岡崎信用金庫 営業店支援部成長産業支援グループ 医療・福祉専任デスク

tel : 0564-25-7115 mail : ifsg@okashin.co.jp

この情報誌は、愛知県内において岡崎信用金庫が配布・問い合わせ先です。ご質問等ございましたらメールで承ります。
また本誌は(株)日本医療企画中部支社の分析に基づく独自の見解を表明しているもので、その正確性・完全性を保証するものではありません。

 岡崎信用金庫

おかしん

これまで一学年30名の定員でしたが、来春からは40名に増員する予定です。やはり看護師の人材不足を補うためにもこれくらいは必要です。入職する際に、若い方は急性期への配属を希望されますが、愛生会には高齢の患者さんが多くいらっしゃいます。今後

とあります。この市民公開講座は当院所属の医師が話をさせていただきます。毎回100名くらいの方が聴講にいらされ、ほとんどがリピーターになっていただいています。5回聴講に来ていただくと粗品を進呈しています。このような活動は、病院の取り組みを地域の皆様にも知っていただけた上で、当院のファンにもなっていただけるので貴重な機会だと思っています。

また、地域の医療機関の方々に対して診療報酬改定時の情報提供、各診療科における勉強会等を行っております。当院と地域の先生方との顔の見える関係づくり及び地域医療の充実の一助になればと考えています。

——愛生会看護専門学校について教えてください。

——最後に伝えたいことを教えてください。

名古屋市区は、他の地区と同じ様に高齢化が進み人口も減少しています。名古屋市全体から考えても北区は昔から高齢者が多い地域でした。また、地下鉄上飯田線の乗り入れにより交通の便が良くなったことで小牧市から名古屋市中心部への「通過駅」になってしまったようです。マンションが新築される等、新しい住民も増えてきておりますが、公団が近隣にあり、昔からの住民がいかに住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えるかが一つの課題となっております。

——社会医療法人愛生会の理念『信頼され愛される病院』には住民が安心して暮らせるという思いが込められているようですが。

——5月末に院長に就任されて抱負などございますか。

愛生会は地域住民に安全で安心な医療を提供し、信頼される医療機関を理想とし、それを実現するために設立しました。急性期医療を担う総合上飯田第一病院、

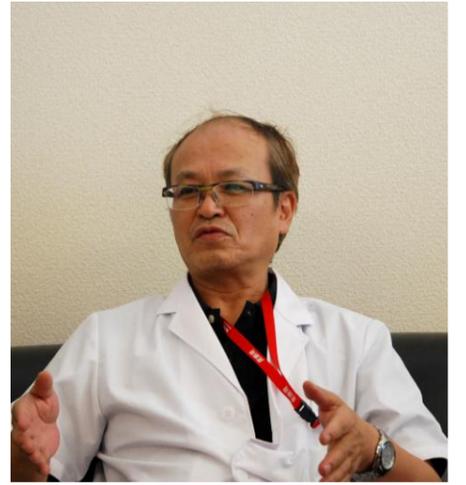
高齢化社会が進むなか、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、訪問看護・リハビリ、デイサービス等の役割はさらに増し、そちらの看護師の需要が大きくなると思えます。そのためにも看護師の育成は重要課題です。

名古屋市区における地域包括ケアシステムの構築を地域の医療・介護機関の方々と協力して進めていければと考えています。地域包括ケアシステムは患者さんにとってプラスに働くものですが、医療や介護が一体感をもってサービスを提供できなければ患者さんの負担が大きくなります。地域の患者さんが病気になるっても急性期から回復期、在宅医療・介護まですべての状態をこの地域で見守ることができ、患者さんが住み慣れた地域で生活できるような、地域の先生方とともに患者さんのための活動を継続していきたいと考えています。

——ありがとうございます。

●聞き手 日本医療企画中部支社

総合上飯田第一病院院長 片岡祐司氏に聞く



社会医療法人愛生会は昭和22年に医師1名の体制で出発し、昭和26年には、医療法人化、それと同時に上飯田第一病院も発足した。現在では社会医療法人となり、関連法人に社会福祉法人愛生福祉会、特定医療法人楠会などグループ全体で29の医療・介護施設を擁するまでになった。今回はこの5月に同法人の中心医療機関である総合上飯田第一病院の院長に就任した片岡祐司氏にお話をうかがった。

——総合上飯田第一病院のある名古屋市区周辺の医療圏の特徴を教えてください。

名古屋市区は、他の地区と同じ様に高齢化が進み人口も減少しています。名古屋市全体から考えても北区は昔から高齢者が多い地域でした。また、地下鉄上飯田線の乗り入れにより交通の便が良くなったことで小牧市から名古屋市中心部への「通過駅」になってしまったようです。マンションが新築される等、新しい住民も増えてきておりますが、公団が近隣にあり、昔からの住民がいかに住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えるかが一つの課題となっております。

——社会医療法人愛生会の理念『信頼され愛される病院』には住民が安心して暮らせるという思いが込められているようですが。

——5月末に院長に就任されて抱負などございますか。

愛生会は地域住民に安全で安心な医療を提供し、信頼される医療機関を理想とし、それを実現するために設立しました。急性期医療を担う総合上飯田第一病院、

高齢化社会が進むなか、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、訪問看護・リハビリ、デイサービス等の役割はさらに増し、そちらの看護師の需要が大きくなると思えます。そのためにも看護師の育成は重要課題です。

名古屋市区における地域包括ケアシステムの構築を地域の医療・介護機関の方々と協力して進めていければと考えています。地域包括ケアシステムは患者さんにとってプラスに働くものですが、医療や介護が一体感をもってサービスを提供できなければ患者さんの負担が大きくなります。地域の患者さんが病気になるっても急性期から回復期、在宅医療・介護まですべての状態をこの地域で見守ることができ、患者さんが住み慣れた地域で生活できるような、地域の先生方とともに患者さんのための活動を継続していきたいと考えています。

——ありがとうございます。

●聞き手 日本医療企画中部支社

回復期医療の上飯田リハビリテーション病院 維持透析の上飯田クリニックにおいて医療サービスを提供しています。また、かかりつけ医の先生方、介護支援事業所の指導・協力のもと、訪問看護・訪問リハビリ・訪問介護・デイサービス等を介護福祉事業部において提供し、地域連携を重視しつつ切れ目のないスムーズな医療・介護サービスの提供を指向しています。

昨年10月からは総合上飯田第一病院で38床の地域包括ケア病棟の運用を開始しました。先ほど申しましたように高齢者が多い地域のため、退院後すぐに在宅復帰というのには厳しい場合が多く、地域包括ケア病棟に入ってから在宅に移るという患者さんが増えてきています。

——5月末に院長に就任されて抱負などございますか。

当院は国の挙げる五疾病五事業の中から対応可能な分野への注力を考えています。私が院長に就任する2年前からがんへの対応として消化器内視

鏡センター、乳腺センターを立ち上げて専門性を持った治療ができるようになりました。また、脳卒中と救急には脳卒中当直制度を採用し、当直医を内科・外科・脳卒中の3人体制とすることで救急患者の積極的な受け入れを行うとともに、10月からは脳卒中ケアユニットを立ち上げる予定です。糖尿病については、糖尿病内科による教育、透析導入初期や透析患者の他疾患での入院を総合上飯田第一病院の腎センターで対応し、維持透析は上飯田クリニックで対応しています。

——最後に当院の特徴を生かすことで地域の皆様がいざ病気になることも安心できる環境づくりを進めています。そのためにも日頃から病院の活動を知っていただくために年に3回ほど患者さんや地域の皆様に向けて身近な病気をテーマとした市民公開講座を開催しており、本年9月で13回目の開催

また、私の専門である整形外科では、人工関節・関節鏡センターを作り高齢化への対応をしています。



社会医療法人愛生会総合上飯田第一病院 院長 片岡祐司氏

略歴
昭和58年名古屋大学医学部卒業。昭和58年から袋井市民病院、昭和62年より岡崎市民病院などに勤務後、平成12年より総合上飯田第一病院に入職。平成27年の5月末から同院の院長。

愛生会理念

「信頼され愛される病院」

- ・私たちは、「安心・安全の医療と介護」で地域に貢献します。
- ・私たちは、「地域の救急医療」に貢献します。
- ・私たちは、「地域と共に、人と共に」の心を大切にします。



愛生会シンボルマーク「あいちゃん」